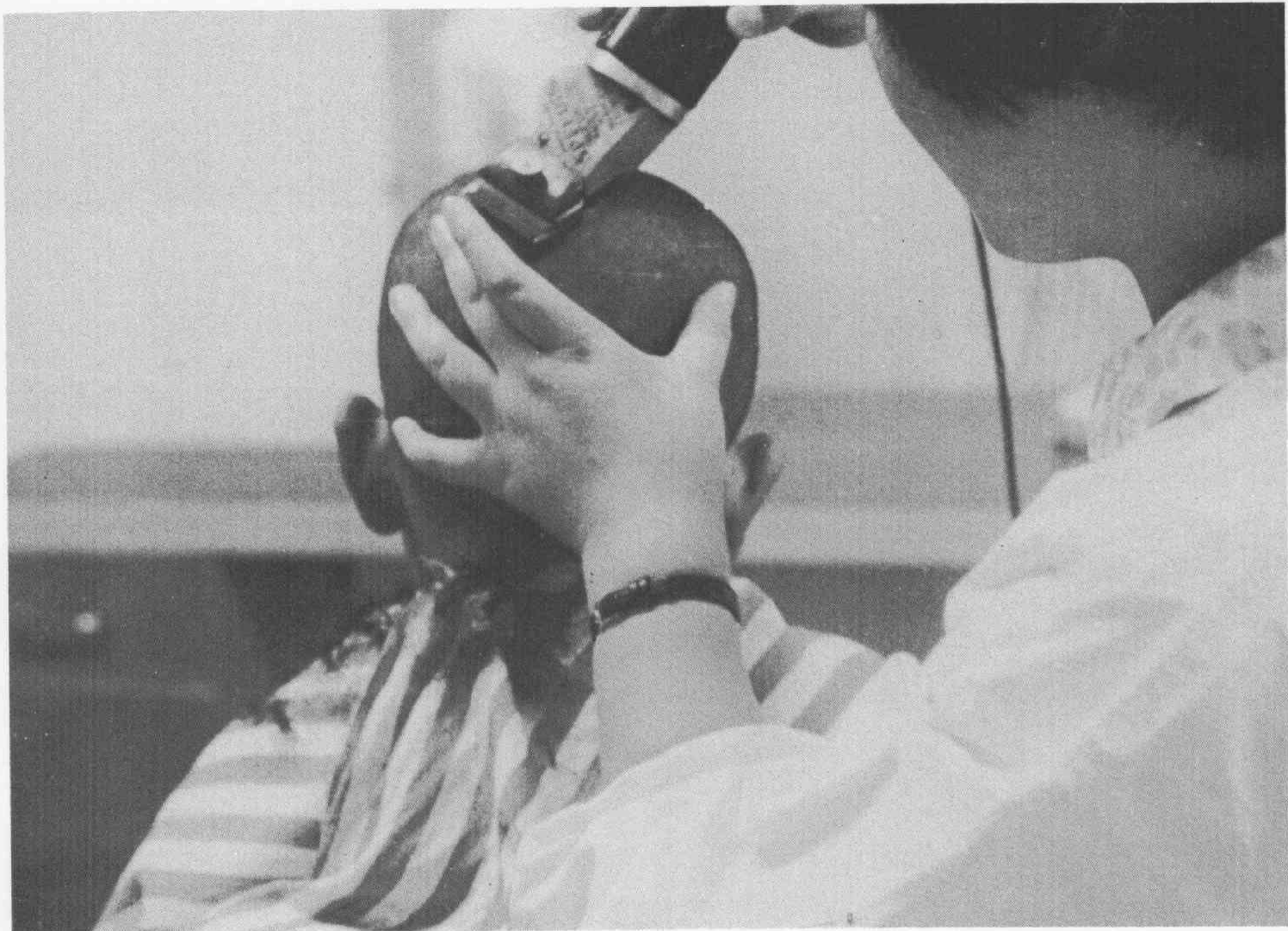




もちつき 12月、ともがらの会が慰問
(40年)



広場を求めて (41年) 子ばと号に乗り組んで校外進出
運動会シーズンになると長居公園へでかけた





学校に寄せられた手紙から

ここ一週間春のような日がつづいています。三学期も前半すぎて、大変おいそがしいときと存じます。就職もきまって、生徒さんたちも学校に名残おしい毎日ですね。このほど宝ホテルの火事がありました。子供さんたちの中で焼け出された人もいられるのではないかとおもいます。相かわらずのベッドハウスだったのです。それでも月になおすと、高い空屋代についているのでしょうか。安いお家賃の公営アパートがたつ事は、ただ家のない人のためばかりでなくその人の人生も変える事がありましように、なかなか大企業への助成のように政府もうごかないようです。今月も少々のを、お受け下さいませ。

伊東正一先生

根岸富子
(昭和45年2月17日)

春分の日も過ぎ、桜のつぼみもふくらみはじめてきましたが、いかがでしょうか。私達は淀川中学校一年七組の生徒です。明るく、時にはいきすぎでプレーキのきかない時もあるほど楽しいクラスです。しかしこの私達が一学期、真剣に考えた問題があります。「私達ができる事で、世の中のために少しでもなる事はないだろうか」 いっしょうけんめい話しあいました。大阪いや日本にいる同じ世代の人々が手をつなぎあって友情を育てれば、すばらしい青春時代を送れると思ったのです。そして私達のできる事の中には、きっとその人達に役立つ事もあるだろうと考えたのでした。一人一人の小さな力でも、小さな真心でも、たくさんの人々がよると大きな力になり大きな真心になると信じています。みんなで持ちよったこのようなもの。少しでも喜んでいただければさいわいです。また私達が毎日考えた事もけっしてむだではなかった事になるでしょう。自分なりの意義ある毎日を作りあげられますよう祈っています。私達も負けないう、がんばりたいと思います

(昭和43年3月23日)

あいらんのうた

1. 高いビルの中には くらい心は何もない
あかるいうたごえ きこえる
おお、 おお、 たくましき
われらのあいらんよ
2. いつも心に太陽を
だいてすすもう ぼくらたち
まずしきななかにも しあわせを
もとめて つっぱしれ
われらのあいらんよ

男子生徒 作詩

「あいらんの教育：第3年の歩み」(40.3刊行) から再録

作 文

ぼく、〇〇です。

ぼくは、北九州で生まれました。炭坑の近くの家で育ち、幼稚園から、近くの小学校に入学しました。

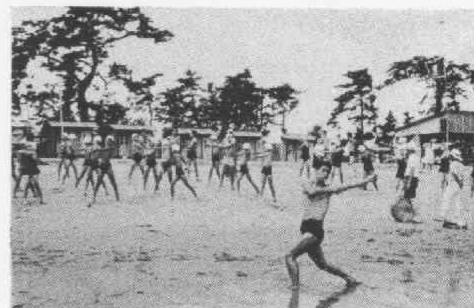
一学期の終わりごろ、その小学校から転出しました。そして、中間という町はずれの小学校の一年生として転入しました。その時は、すごく、はずかしい気持ちでした。三年生のころ、よく廊下に立たされていました。一学期の終わり頃にその学校から転校しました。

ある日のこと、ぼくとA君とふたりが、げたばこの上にあがって、寛紀先生が掃除をしておられるのを見ていたら、ぼくのおとうさんが来て、急に、ぼくとA君とを連れて五年生の教室に入れて、おせっきょうをした。ぼくは、おとうさんにほっぺたをたたかれた。おとうさんによく言い聞かされて、おとうさんと、Aくんと、ぼくの三人は学校を出た。A君と別れて、帰りがけのおとうさんは、とてもやさしい顔をしていた。

五年生も終わりになった。通知票をもらうときがやってきた。三学期の成績はふつうぐらいだった。おとうさんに見せたら、「もうすこし、がんばれよ」と言った。

—以下略

浜寺海水浴場 (42年)



長居公園で運動会 (46年)



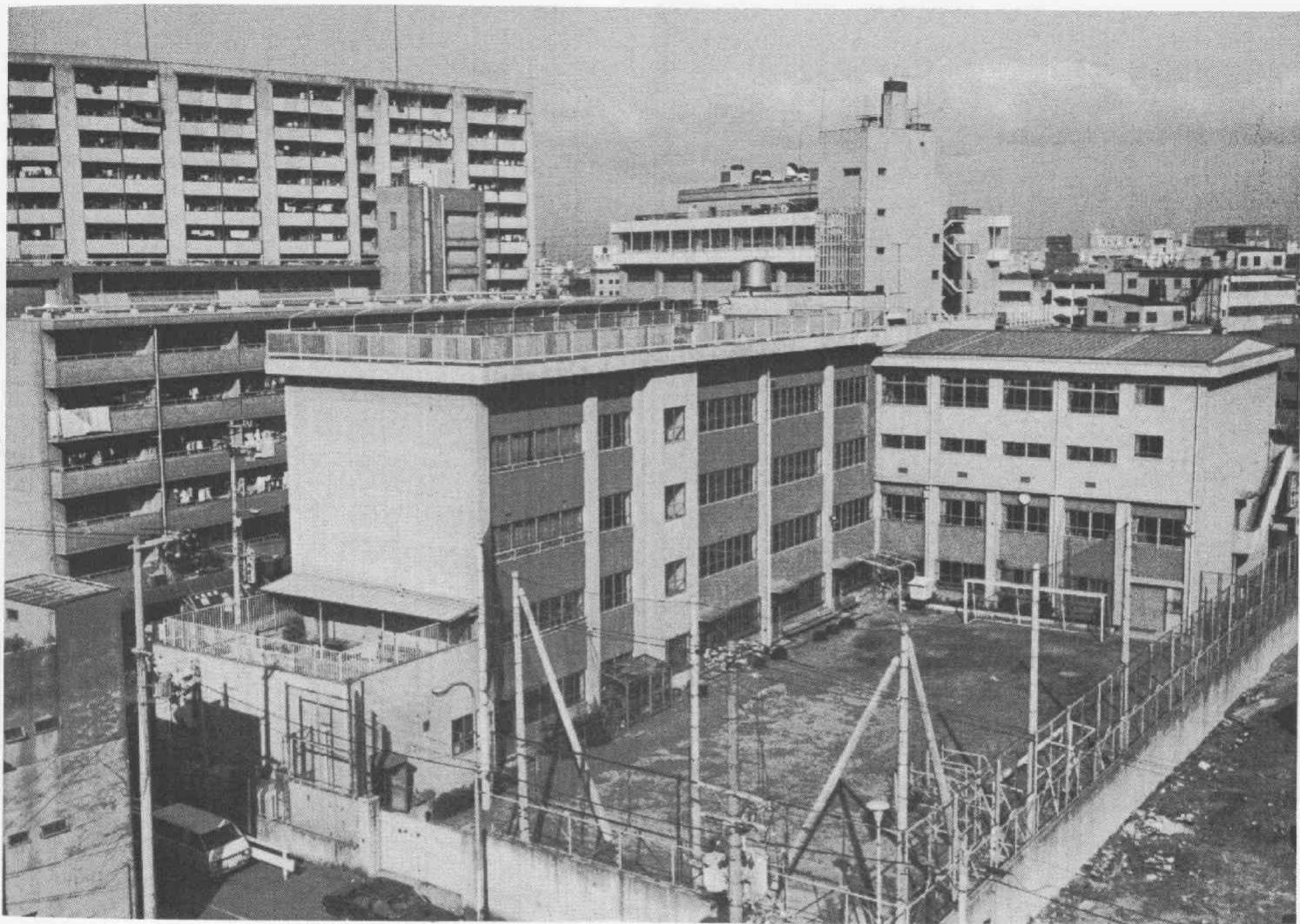
西成警察署で柔道



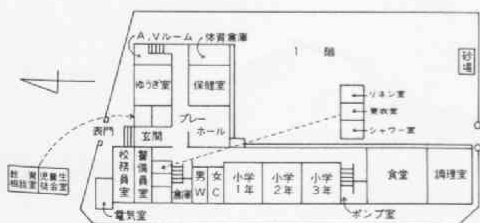


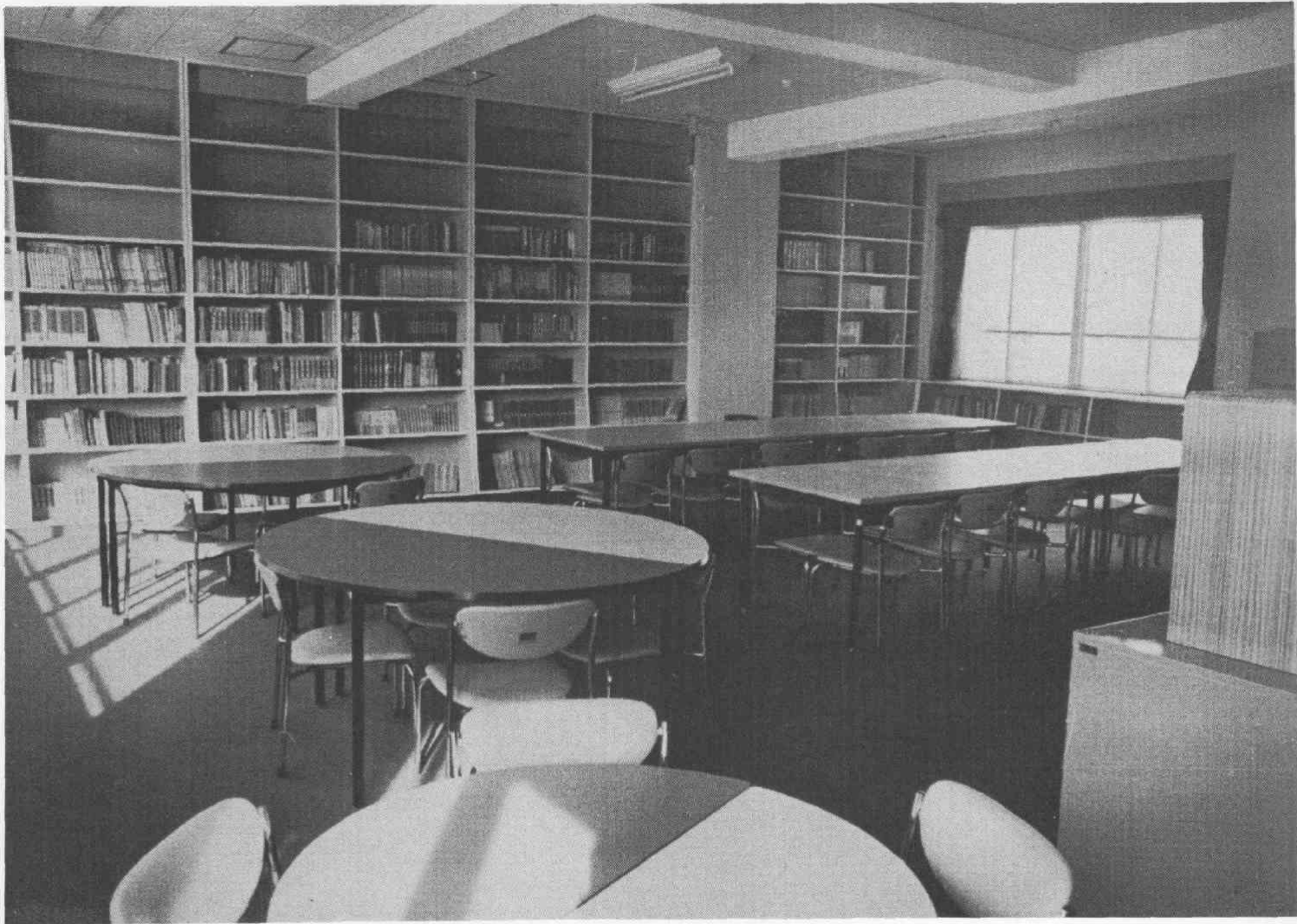
●独立校舎前景

独立校舎 待望の独立校舎へ移転(12. 22)
(48年) 新今宮小中学校と改称 校庭の土が香る



● 独立校舎背景





校 歌

●図書室

(1) 我らの町の 西成に

明るい光が 輝いた
緑と土の 校庭で
元気な声が 歌います
共に学ぼう 肩くみあって
新今宮 新今宮 我らのまなびや

(2) 我らの町の 西成の

明日をになう この身体
明るい未来を 築くため
励しあって 進みます
雄々しく立とう 荒波に
新今宮 新今宮 我らのまなびや

(昭和49年 3月1日制定)



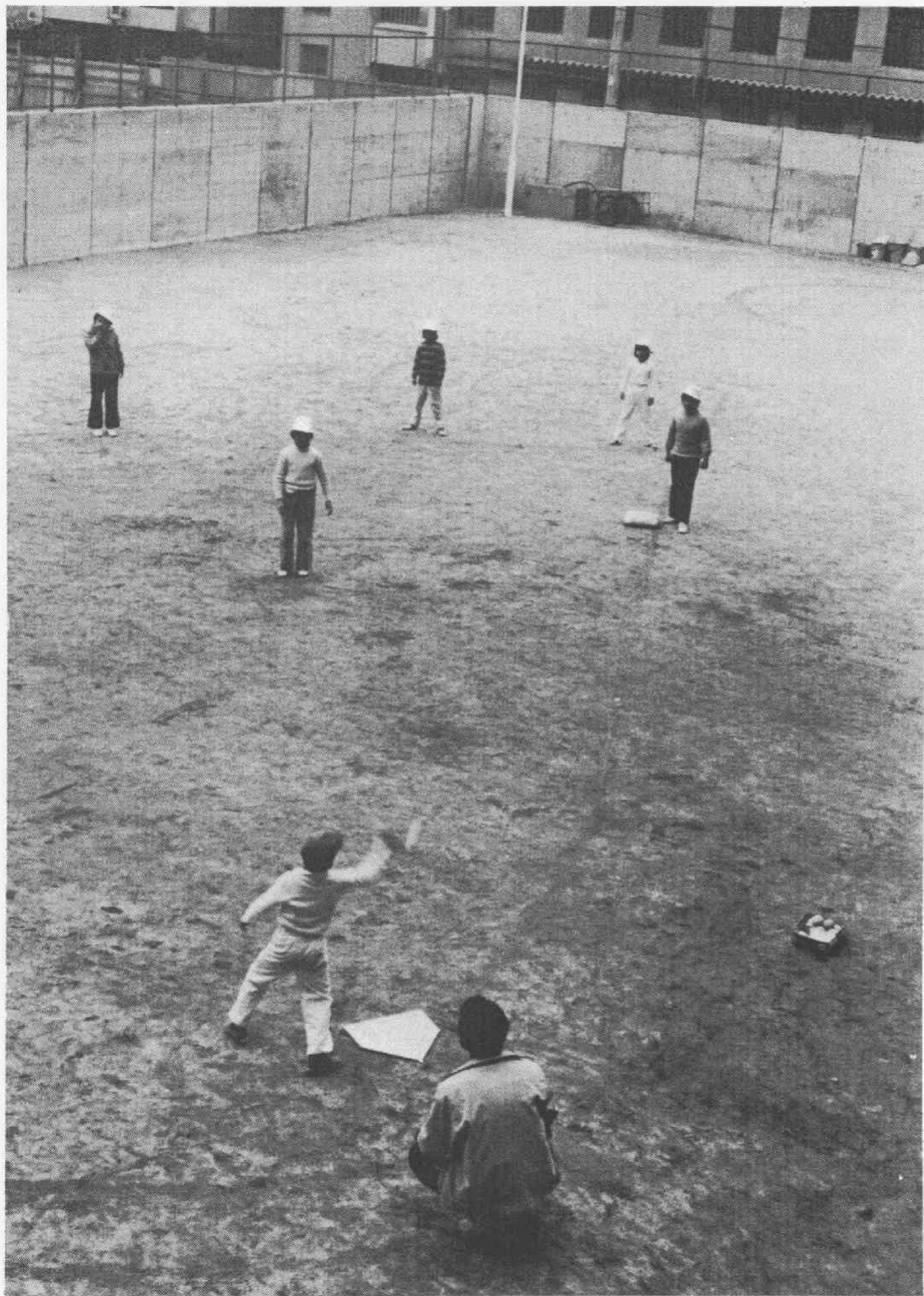
● プールシャワー



新校章



旧校章



●校庭でスポーツ



●卒業式

あいりん地区小史

- 享保年間 名護町一帯（現在の浪速区日本橋）幕府御用米運搬人等の木賃宿が発生、「極貧堀」と呼ばれるスラム地区を形成
- 明治7年 飛田墓地、阿倍野斎場へ移転
- 18年 阪堺鉄道（現南海本線）難波＝大和川間開通
- 22年 大阪鉄道（現国鉄関西線）開通
- 27年 日清戦争始まる
- 30年 西成郡今宮村の一部大阪市域に併合される（関西線以北）
- 31年 大阪府宿屋営業取締規則制定（大阪市、堺市内での木賃宿の営業禁止）木賃宿、釜ヶ崎へ移動 木賃宿、長屋街等に日雇労働者集中
- 33年 南海電鉄天王寺線開通
- 36年 第5回内国勸業博覧会開催（天王寺）
名護町スラム、今宮村入船・釜ヶ崎地区に移転
明治36年開催の勸業博覧会（6ヶ月開催）のために、博覧会会場に向けて沿道（名護町一帯のスラム街等）の整理を行った。名護町一帯のスラム街は、必然的に南下し、入船地区（現在の釜ヶ崎）に移っていった。また、勸業博の労働力として、日雇労働者が、全国各地から集まり、入船地区はスラム街として膨張していった。
第5回勸業博覧会において人類館事件が発生した。
朝鮮館・琉球館・アイヌ館等という催場を作りそれぞれの国の人々をみせものとした。
- 41年 市電南北線（難波—今宮間）開通
- 42年 天王寺公園開設
釜ヶ崎地区は日露戦争・第一次世界大戦を経るなかで、当然のことながら、景気・不景気をくり返し、失業者・貧困者が大量に増加していき、全国各地からの人々がこの地区に流れ込み、大正末期には、本格的なスラムを形成するに至った。
- 44年 私立徳風尋常小学校設立
阪堺電気軌道（現南海阪堺線）開通
- 45年 （財）大阪職業紹介所開設 大阪自彊館開設 通天閣、ルナパーク完成
- 大正3年 第一次世界大戦始まる
- 4年 天王寺動物園開園
- 7年 大阪での最初の米騒動、今宮町で発生
富山県の一漁村で起きた米騒動は、全国に波及したが大阪で最初の米騒動は釜ヶ崎の木賃宿45軒の労働者2,700人をはじめとする今宮町住民の多くの人々によって起った。このことから、釜ヶ崎にいかにも多くの貧困者が居住していたかがうかがわれる。
飛田遊廓開設
- 8年 大阪市営今宮職業紹介所、今宮労働紹介所開設
- 9年 四恩学園開設 大恐慌始まる
- 14年 日雇労働者のための公営事業開始 萩之茶屋職業紹介所開設
今宮町大阪市域に併合、西成区になる
- 15年 木賃宿の名称、簡易宿となる
- 昭和7年 世界的不況の中で、地区人口も急増、14,184名となる
今宮簡易宿泊所開設（のち今宮保護所分館）
- 11年 西成労働紹介所開設
- 13年 地下鉄、難波—天王寺間開通、動物園前駅が出来る
- 17年 地下鉄大国町—花園町間開通
- 20年 大阪大空襲、地区の殆んどが焼失（山王・飛田は焼けなかった）
- 30年 西成市民館、済生会今宮診療所開設

- 33年 売春防止法実施、飛田遊廓廃止
第二次世界大戦前はスラム街的な要素の強かった釜ヶ崎地区は、戦後戦災の復興を始めとして、朝鮮戦争・ベトナム戦争の特需、臨海工業地帯の造成、万国博・列島改造と、産業界における日雇労働者・社外工・下請工の需要は高まり、その労働力の供給源として規模をさらに大きくして、スラムから日雇労働者の巨大な街へと変わっていった。
- 36年 西成愛隣会館開設
第一次釜ヶ崎事件 (8.1)
第一次釜ヶ崎暴動の背景には、地区労働者の劣悪な労働環境があげられる。就労時の手配師の介在、強制労働、賃金不払等、労働の場で人間らしい取りあつかいをされないことへの不満がうっ積され起った。
府労働部西成分室開設 (9.1)
- 37年 西成労働福祉センター発足 (10.1)
あいりん学園開設 (2.1)
市立愛隣寮完成
- 38年 第2次釜ヶ崎事件 (5.17)
第3次 " (12.31)
- 40年 今池生活館開所
- 41年 第4次釜ヶ崎事件 (3.15)
第5次 " (5.28)
第6次 " (6.21)
港湾労働法施行
第7次釜ヶ崎事件 (8.26)
府・市連絡会で、「釜ヶ崎」を「あいりん地区」に呼び名を統一
- 42年 府労働部職業対策課を新設、地区対策を所掌
第8次釜ヶ崎事件 (6.2)
- 44年 全港湾労組建設支部西成分会結成 機関紙「大阪城」発行
- 45年 万国博覧会大阪で開催
あいりん労働公共職業安定所開設
(財)大阪社会医療センター発足 (今宮診療所廃止)
あいりん労働福祉センターオープン (10.1)
第9次釜ヶ崎事件 (センター詰所焼打) (12.30)
- 46年 第10次釜ヶ崎事件 (5.25)
第11次釜ヶ崎事件 (6.13)
第12次 " (9.11)
- 47年 第13次 (5.1)、第14次 (5.28)、第15次 (6.28)、第16次(8.15)、第17次(9.11)、第18次(10.3)、第19次(10.10) 釜ヶ崎事件
日雇労働需要ピークとなる
- 48年 第20次釜ヶ崎事件 (4.30)
第21次 " (6.14)
石油危機、不況始まる
- 50年 簡易宿所千成ホテル全焼、4人死亡、重軽傷59人出る
日雇健康保険の給付内容大巾改善
雇用保険法施行 (4.1)
- 51年 「建設労働者の雇用の改善等に関する法律」施行
- 52年 大正区柳井建設飯場全焼、12名焼死 (6.25)
- 53年 あいりん銀行預金高、4億円突破
- 54年 子どもの里(鉄筋3階建)開設
大阪市社会福祉審議会による「あいりん地区福祉対策の今後の進め方」について答申 (4.3)
- 56年 建労法による建設雇用改善計画の第2次5ヶ年計画がスタート

新今宮小・中学校沿革

前史

戦前、本地区に徳風勤労学校があったが、戦災をうけ、昭和21年3月31日で廃校になった。その後、街頭補導などによって、不就学児の発見と就学督励が細々と続けられていた。活動の中心となったのは31年5月に発足した「萩町仲よし子供会」など、永田道正氏等民間篤志家であった。35年、府青少年補導センター・西成警察署共同で不就学児実態調査が行われた結果、その数は200名にのぼることが明らかになった。しかし、行政による不就学児対策は36年8月に発生した第一次釜ヶ崎事件という不幸な契機を待たなければ実現しなかった。なお31年に行われた長欠・不就学児童生徒調査によれば、中学校全国平均長欠率2.25%に対し、大阪市は3.63%を示した。その後3.2%（32年度）2.57%（33年度）と着実に低下していく。長欠率は行政区によって大きな差異があり、32年度中学校の場合、浪速区は8.7%と天王寺区の1.4%の6倍強の高率であった。なお本地区の統計は不明である。

昭和

- 36・8・1 第一次釜ヶ崎事件発生
- 12・19 不就学児童生徒の実態をたしかめるため、市教育委員会主催で西成市民館講堂にてクリスマス子ども会を開催 参加児童生徒は70数名
- 37・1・8 くわ入れ式挙行 同月30日パイプ校舎完成 場所は藤田安次郎市の無償提供による西成区海道町5番地西成警察署前（744㎡）、工費は315万円
- 1・12 新年子ども会開催 参加児童生徒約50名 父兄に就学を勧奨し、約50名の入学願いを受理
- 2・1 就学願の出された54名の児童生徒を受け付け、授業を開始、大阪市立萩之茶屋小学校分校・大阪市立今宮中学校分校の形でありん学園と称する 小学部2学級、中学部2学級編成で、仮校舎のため小学部・中学部各1教室で授業 同日付で府教育委員会より特殊学級（現養護学級）として認可を受ける 職員は学園主任として指導主事（港一敏）常駐、教諭2名、嘱託（主として就学に関する事務）1名、現業員1名
- 2・17 あいりん学園（分校）としての開校式を挙行

- 3・24 修業式及び卒業式を行なう 小学校卒業生9名
- 6・12 あいりん学園後援会設立総会開催
- 8・8 大阪市立愛隣会館落成式、学園は会館の4・5階に移転
- 38・3・24 小学部16名の卒業式を兼ねて修業式を行なう 中学部1名の卒業生は3月15日今宮中学の卒業式に参加
- 4・1 大阪市立あいりん小学校・大阪市立あいりん中学校として独立開校、初代校長港一敏、通称名「あいりん学園」はそのままとする 中学校3学級・小学校6学級
- 41・7 } あいりん小中学校後援会が教育委員会に対し、独立
・11 } 新校舎建設を陳情
- 42・12 大阪市があいりん総合対策を発表 Aブロック案—あいりん総合センターの建設 Bブロック案—1～2階は保育所・児童館・生活館 3～5階はあいりん小中学校 6階以上は住宅 運動場は公園を利用 以降独立校舎建設を求める運動が府市に対し積極的に進められる（全港湾建設支部西成分会・市教組市会議員団・日赤奉仕団・社会福祉協議会と協働）
- 45・1 朝食欠食児童生徒に対し給食の支給予算が配当される
- 46・1・20 教育委員会が独立校舎建設について具体的計画を発表 ・場所—西成区東入船町の元労働福祉センター元市営住宅の跡地 ・建物—4階建て、L字型2400㎡ 200人収容 講堂、屋上プール、運動場を備える ・事業費—2億6千万円 ・着工—46年度 ・完工—47年度
- 47・12・21 新校舎建設はじまる
- 48・12・22 新今宮小・中学校と改称 新校舎へ移転（新住居表示 西成区萩之茶屋1-9-24）
- 49・3・1 新校舎落成記念式典挙行 校歌校章を制定
- 53 31 元ケースワーカー小柳伸顕氏、「教育以前」を田畑書店から刊行
- 54・11・3 玉江・小出給食調理員、教育委員会より職務精励によりグループ表彰を受ける
- 55・7・10 あいりん地区教育対策小委員会が発足 校長会・市

教組南大阪支部・PTA協議会・解放同盟・地区諸団体を結集し、児童生徒数の激減する新今宮小・中学校の将来構想や地区内諸学校に於る「あいりん教育」のあり方について意見を交換する

- 56・4・1 新今宮小学校児童数ゼロとなる
- 57・11・30 市教育長・近藤博之氏、本校を視察
- 58・11・3 吉川・野添両管理作業員、教育委員会より職務精励によりグループ表彰を受ける
- 59・3・14 中学校最後の卒業式を挙行 卒業生3名
- 59・4・1 大阪市立萩之茶屋小学校および今宮中学校の分校となり、残務を引き継ぐ

徳風学校

明治44年7月現在の浪速区南高岸町に誕生したものである。その頃の木津今宮の1部（いまの広田町・関谷町・日東町・下寺町・高岸町・船出町等）の貧困児童に対し、学校経営費として毎月35円を久保田権四郎が醸出し、木津第二の浅井清太郎校長に委嘱し開校されたものであったが、翌年6月同区広田町に移った。はじめは夜間校であったが、大正2年には昼間部を置き、大正11年3月末大阪市に移管され市立徳風尋常小学校となった。特異な環境内にあった学校のこと故、不就学児童収容のため異常な努力が加えられ、大正2年には児童浴場の設置、同13年には歯科診療の開始、同14年には公費による昼食の給与など独特のものがあつた。そして昭和9年付近の発展と校舎の狭隘、腐朽のため146,000余円で移転改築のことが市会で認められ、大正13年当区甲岸町の現西成市民館の位置に移った。

その後昭和2年6月小学校のわくをはずし特に運用の自由がある勤労学校に改組、貧窮児童に対する特別保護教育に全力をあげた。しかし昭和16年4月小学校が国民学校と改められた際、徳風国民学校となったが、20年3月釜ヶ崎の戦災とともに戦災をうけ廃校となった。なお昭和11年保護者の更生を図るため、従来の保護者会のほか地域の組織として今宮報徳社が設立され地域改善に成果をあげた。

〔西成区史〕から

第一次釜ヶ崎事件

36年8月1日午後9時15分頃、東田町派出所前でドヤ街の住人柳田豊造（62）がタクシーにはねられ、その交通事故の処理問題に端を発した。その際救急車の出動が遅れたとして「警察は何をしとる」「怪我人を早く病院へ運べ」など一部日雇労働者や住民が怒声をあげはじめ、折柄夕涼みやホロ酔きげんの若い衆が集まり来り、10時30分頃には約700～800名になり次第に険悪化し、派出所に投石放火し半焼半壊させるに至った。そして群衆はさらに西成署を襲い無線自動車ならびに警察本部鑑識車を放火炎上させるに至り、完全に暴徒化した。この集団暴力事件は1日をもっておさまらず8月3日まで毎夜4000～5000名をかぞえ、行動範囲も著しく拡大され、内容も兇暴化し、警戒中の警備部隊に投石するほか阪堺線および関西線に座り込み電車に対する投石等により列車の運行を妨害し、自動車を炎上さすほか、他方ヤクザが自警と称して町をねり歩き険悪な情勢がつづいた。

かくて遂に警察は局地的早期鎮圧を図るため、3日府警最大の警備態勢をもって52箇中隊（6000余名）を投入して徹底的に悪質不法行為者の検挙を強行し、暴徒化した群衆を分断分散した結果事件は大きく好転し以後局部的に小事件はあつたが、6日目には完全に平静となった。しかしその後1ヵ月間はなお警備体制が強化され、投入警察官の数は、延105、266名におよび、第1日目からの警察の経費は7000万円、逮捕者111人におよび、戦後の暴動としてはまさに安保闘争に際しての国会デモ以来のことといわれた。

〔西成区史〕から